

株式会社 御花

「郷土とともに歩んできた歴史と伝統を継承
100年後も光り輝く「御花」であり続ける」



- 1 明治43年に迎賓館として建てられた西洋館
- 2 大広間と松濤園。大広間は昨年8月に改修工事が完了した。御花は、その敷地全体が「国指定名勝立花氏庭園」として国の文化財指定を受けている
- 3 立花家18代目に当たる立花千月香社長
- 4 松濤園に面した大広間では、テーブル席での披露宴も行うことができる

今回紹介する企業は、柳川観光の拠点として、料亭旅館や土産物店をはじめ、ブライダルや各種宴会などのサービスを幅広く手掛ける株式会社御花です。

もともと柳川藩主・立花家の別邸であった当地で、昭和25年、第16代当主・和雄さんとその妻・文子さんの両氏が料亭を開業。以前から地元の良い事などの際には、広大な屋敷を宴会場として開放していたこともあり、それを商売として始めました。当時は、戦後の民主化政策の影響で、立花家には多額の税金がの

しかかり、経済的に大変苦しい状況で、料亭や旅館の経営にいつのノウハウを持つていたわけでもない二人は、苦労と試行錯誤の連続だったそうです。

柳川に今ほど観光客が訪れていなかった時代、広島県出身の和雄さんは、よそから来たからこそその目線で柳川の良さを見付け、柳川観光のきっかけづくりをしていきます。有明海で採れる魚介類を使った料理や、掘割で舟遊びをした経験から、川下りを発案したことなどがその代表。やがて御花は、水郷柳川の観光拠点として親しまれるようになっていきます。

でも披露宴のためにドレスアップしてきているのに、靴を脱がないといけないというのもおかしいこと。それで大広間に絨毯を敷き詰めて土足でも上げられるようにしました。絵になる「花嫁舟」とともに、若い人たちに喜ばれています」と立花社長。歴史のあるイメージですが、意外なほど若いスタッフが多い同社。伝統を大事にしながらも、新しい発想で風通しのよい職場づくりにも努めています。100年後も光り輝く企業であり続けるために、御花の努力は続きます。

●社長のひとこと

歴史と伝統ある建物を保存し、活用していくのはもちろん、「あの人がいるから御花に行きたい」とお客様に思ってもらえる会社を目指し、「人で選ばれる御花」を合言葉に、社員一同日々頑張っています。

【問】市商工・ブランド振興課 企業誘致・ベンチャー支援係 ☎77・8762

【企業情報】

- 本社所在地 = 新外町 1
- ☎ 73・2189
- 資本金 = 1000万円
- 代表取締役社長 = 立花千月香
- 従業員 = 100人